P1

政能

依懇望西山之儀成基立候

ほうしの事南西は

峯の水なかれかきりひかし

P2

きりたは道かきりにわたし

置候いらん申者あるへからす候

仍支證文如件

弘治二年辰丙十一月十六日

則岡勘解由左衛門殿へ

P3

永代売渡事田地之事

合而益反　字々河原田公事之本悦之反浅受

聞秋米七升代本諸悦基座候

右怯下地足梨先祖之本領にてか依要用有

直米三石二十四下売渡申水交実正也万一天下一同

之永地御徳政行候の怯御下地之儀子々泣々に

至迄遠礼妨申物有間巻以為後日語文

如件

P4

干時天正十六年子戌十二月二日

買主　荷籠主

□□

【下段】

買主　浄天　　政房　文長

久考　所法　　同　法寅

則岡　勘解由左衛門　　又次

【左上段】

古好源与入々

太閤様御手〉

立候物一昨日

【左下段】

心なしみえ

御客生花大〉

御すらりて然様

一ひかれきく

P5

拵しひかえ笑

可分足召候一領

ご機嫌／＼

御座候振る

中納言始御

つけひめめ何

いらすをもや

【下段】

五之怯し

表大脱

十一月八日　□□

P6

永代買渡申田地之

合□ 字云前田公方之本役云夏

依米弐斗又升田銭又十文此外話

右依所一要用直束七

売渡申事実正也

P7

天下一同之永地之御法

行佛午毛御計下地子∨次

然迄造乱妨申者ニ有□

以而詰日之証文如件

文禄四年巳乙正月二十日

買主

浄教方

□□

【下段】

買主

次□

盛□

九佐

又加

与三

道一

P8

迄返し大略にして此
ひるしかりちひ
ら相超佐源左と
安便之条今車候
愛岩山得下／＼
入焼取右御青お屋敷に
左源召∨辺分之小ニ郎
理置を弥入申半右へ申
不の∨そなるひ
届金左口裏をら立聞

【下段】

今も筋た□わきまへ
さひえにかつね人もおいは
此辺あさいかは法る
紙こ抄に早連か
は若∨迄ひ
此書牛をまし申候に
免取　いし　金左
竹乙さ座恩公道郷
いい／＼いそぎ／＼此ふし
四殿のかへも匁

P9

いささか／＼ひとへらし
湯くら上へ□作御之仁詰
かもさた候きいかさからなへて
らてしし之□文兵光年の
今らま候かかしかる
かれこれ不古済兵い小ニ∨
今をしな
あへけ置事新又は又兵
り人に又見きさし
手前すみじ七秋次郎太と
人に見を上へ正身
の出いりすまさるあにたは
らしけ候かなさかり
土れもあつけかさきらし
るま∨らし候□□いへ
ちもきらしる何とも
しさし申にのらへけし
無公草由しあまり葉に
ゆかろ候かしらへ霞ささや
とか心何らな見るきか
てしさらつ∨いすひしれは

【左上段】
ただ手をかへ源左ならひ
らもたいていて美かたり
子而夜松らて見て
ただらひは大きとか

無以在てをつくしたるや
んらしねあをあつらへ
八大誓言初申を
今らなこひこらたし
事を不少細して
今いそし
さかへさし余のつね□
いられれか見てはけた
P9
【右下段】
四食宅寺
方へ
みなし有れとさし
□□□そ今な成山て
無せ行分かる一候
見をら一申と

八月八日　政宣

【左下段】
しゆ

P10
之候分発追たし知
ふのむ奥の孫手
なしせらもゆけた
迄度は恥垚悟に
夜網くんそ何∨かなし
洋道丹えみひら申白∨
本入とかいへもた∨
若と家伊半右之候
思あひて
献通知すみるへいら
申を知露不案内方
火災久有迄郎大夫に出案

【下段】
申して半右精人とぬ
乞はむたら妙糖
仏らのつねの事は
なを申しされとも
其た∨にから家ひ
由銚半右十巳日を
其ち申次第か候郎見ん
万端道無へ立しは
中∨ふの臣易ひく

P11

副けた人は研本場に永〻
這而在しも正和は幸
笠久荒新と年匁む
寺閑候原か様え出入を
申てくれんとてゐ〻に
ら申済へは請取ひはなし
かへとも随分異兄申迄と
もう中伊半右作ゐ月
笠久し今田信間いをる
荒詞見今及入花返

【左上段】
説半右こい切し好共
此筋そ迎置候乙とれたは
ましかしつめは〻其方
なおの斎元一候相済と
今有か心得しかやに

【下段】
三月二十日　□□

浄□世第大

P12

かへし心気けれ
いをらつへ
今外三里申して
人はた∧
吉首庭らこ思すとて
芥たくし
言人不申美は
申入に候すいめ
床本竟承人て
は省えさな歌
又六女に衆ら相
按そたし書夜

【下段】

詞薪主人新言伝
天下は今為静禮取
通の／＼今預か而な
船つらたし其乞
たるひしに候
日出発五約に風に
大明とらゆやす候
奉侍うもしたすまい
のわたれる新発文
もしし∨ほ候第に

P13

形〉やつ気け今様
屋布し市いつ
美ふとし殿申し人へに
果やらさるゐひほに候
無如行養て
かねふかかなし伏そ
てゐき用
大坂猶候風詞申
小次永く返而
やてひみても
し是又品名
置用口静□へ
かしからり申にし

【左上段】

かいくへととり
何とそ／＼相済
さこらもにて
申られてひとへと候
何も見にわかさひ
かねな寺一々ふ
ていにしひかし

【下段】

鶴るとへるたへょひ
こしらましな
けたへこひ大夫へし

いつ〳〵ひく

三月二十八日　政宣

【左下段】

ひまし

浄口花　片下左

P14

をろし承人ぞ
今外祭う
又六女府衆分故
れし
果∨やふねそれ深
それとても
まなか心中
いりなひしか
先発そたへそか
分らはれさる判原
ひたしふに金破大も
客許へけに
是垣一姜肝を煮申度

【下段】

此知に候家∨の辛苦
出は咲口に家たし
我∨なとの分知にい兎角
又六胸て在え
か事かと
存事∨さき／＼に
其かあわき許へさる
酒升／＼時さし根
於形ふて此と二度
ふねにもはて越しる

P15

物詣かて心とつ
海にこ馬小左一円成不
は∨∨りし
申返に及礼今仏も
せ∨もちら承
玄精不入中かしお
私∨御礼申し
ほしめしとて候不け
あらすかかいふ□け□
けそら候と申
伊賀なとへか内堀
八楼∨我∨油汁の在
て事となたし
あらさるひ第を房
けしたけらとうかし
なとい物六借かりす人は

【左上段】

申てこ∨みとなち中∨に
さたほうし置候へは
金左ひら大之際と
記済かてはや／＼舟は
のほり申せし色此上そ
間心るにかまいし有郎
さすいふん伊賀へは入魂

【右下段】

卯月二日　政宣

【左下段】

人太の升　てふか

浄□□□□　政也

P16

慈祥方〉穣状之事

屋敷　検地ザコク壱升四半入合

又兵寿

天神免　作人方ヨリ麦一石五升検地一反八畝

大升是米弐石八升弐石三升四升

又三□

仏餉田五畝六升　作人方ヨリ麦ニ升五升

大升寿　米四升ニ升

P17

源大夫

一反徳事　作人方ヨリ麦一石一升五升　検地八畝

大升之―米一石三升　九計六升

助三

一反小講　作人方ヨリ―麦七升五升　検地一反ニ畝

大升之―米一石三升一升　一石四升四升

計□左

一反稲免　作人方ヨリ―麦七升　検地一反一畝

大升之―米一石ニ升九升　一石五升六升

真付　源大夫子

大油免　作人方ヨリ―麦七升　検地九畝

大升之―米九升　一石一升七升

四＜三＞

畠大　作人方ヨリ―麦四升　一石一升七升

大升之―大豆三升　検地さこく六升

こけや

畠半　作人方ヨリ―麦三升　検地さこく四計五升

大升之―大豆ニ升

□□

三畝　小田作人方ヨリ―麦ニ升　検地米三升　□

大升之―米三升

新四

一畝一原　作人方ヨリ　麦七升　検地米一升ニ

同人

十一下京　作人方ヨリ―麦七升　検地米一升ニ升

大升之―米一升五升

一所京　作人方ヨリ―米一升是は無検地

大升之

百姓ヨリ納分

以上麦六石ニ升ニ升

以上米七石九升三升

以上大豆五升

□へ納ノ事七石五升九　同さこく前一石ニ升九升入合

P18

文禄四年十月吉日　慈済庵　託

慈祥方

永代売渡申畠之事

合小　字としのせろす大方へ諸役い寿六升交三勺

　　坪登六升交不勺此外夢語役と

右依九要用直米三石壱斗は

売渡申事実正将同や第一

天下一同之永地御徳政しと也

P19

拾此下地は子〻給えひ也違形勝

申者有之有敷ゑる為島日

褙文如件

慶長十年巳乙三月晦日　売主　泉大夫

買主

三平殿へ参る

法寅

亭七

父　助亭

P20
今正句に吉長書箱鶴をは
去候はめた候にいかふれしおへ∨すく
□もし立その乞らしちやし
御状は今破先∨今発亭大夫
やまとかれこれかへたしへ
罷下御処にただやろなくは子付
またははちきやてつひへかしなから
段なみたをなかし満豆無極婦
かえ／＼入うすてら候
尤是∨心□見次第に下しひねらし
□□な今入
大阪天満宮られこれ御観置る
大しまいひ此月相か来月かは

【下段】
□□言てょき事候へこ百ニ日
あせ申事ふ候先∨とちへしふくね
下並へに西か七日にけ方と候ての
其心ひ色な山御か山中をは迄かて
たびたび申も書富辺此王極ふへしらへ
む走とてかみすみるいさうさのし
入事さこのかきりて一ト水無之次第
院然たて候云四にてら時いといとかへ
後い松に立き∨ふるふけ此る対い鶴
かいひとつちちまかやしたしれら
ねてまて今様事ま色たおまへると
秘∨品進々し心如と也そへかん

し今と∨ろ名いる鶴子に事

P21

必∨女房えしくたしてうもひのき
山次はしつちくやん中納言兵居らし
ろれりとをにいなふとぞ中納言なし
取∨入て和∨をいそ人な乞偏初領知
は候ふもかり申終に池田さそ申ひと
氷∨あちをに申来しるは一返事をり
聞そけもてり是もめなしにらるも本
次会ならしちき筋ま源の大夫なし
いかがへも元此色に五九何かた候に介せお∨
仏乞同やすくおかしやし田程申動
た∨て加良はなし人□とてみ色け
送くそもとたしや一己らのくてり

【左上段】

聞とてとらにへすて我下様寸無た
け月中に夜夢て申ま来月は必
女房君候∨候まてょやらの仏は
幡／＼細一うは不な人也を切に
云をはやはやふかひり下申しめ為出
や∨く前聞合あな是日打ね
左は申入候そ時は□□送作る
れ生めも候子代たは告の然

【右下段】

れふにいつねらすせとふたかへふた
やとてにかや事返けし思に許ふり
下ふ申仏は□∨きやくもにあらさるし

右∨へにただ有まへててけ候此方る
か左右てうるて時は女房えひるひ十
□令斗船のさも明ら∨ふねらし
ら八月すりいそた候へと給此たかり
ゆに申入∨仏もとたし行い在百
松入∨郎ふけそのたしたるた候き
見ま無∨所は∨へさたし前返事聞
不てへ∨我本此戸立銅三色は
歌し久かをはてら申衆へのるかはらい
らしとく鶴事と一円に頼入と斗に

【左下段】
目出云へ∨か候

十一月□日　玄心

P22

くて紀川ふもとれも何も
もしやた候かやすかひやし候
ふちかこかそくの何け候入し
いいそきかへかしとさひと
けそそりただ一原
ふつめへしんかになこなふゆい朝
其己永々亭労□ねのに
又つるに□ゆくそんふさかみゆいこ時
いお□んそくけたし時鶴御
ひすせくれのなかし又みし
城にふ巧つめ申や然て若し
くれぐれ帝大夫と□かてねとと
つめかれらんとるろ申して
つかさにさしたすへのもみしり
青ふちかもいえもすら
さいかへもふか□ふはしさきたにふ
明暮これのみあん候入申と
つかをやとへ思してこやと有を
おとに∨つるし申おそ得名て
つさせかしすきずきをたこに
をとつれも□て一入／＼雨音て
か具合して有るさわしまのみ入とひ

【下段】

たのみたのみ入事候せめて立やとをは
申こけたへさひし其こかへ小左かへか候と
さひと霞ふすてかれ工九にふつ

左宮にもとか久は成あ見まさと
見たられ候霞きかおも各そんし
又をへにくいこれをあん候入申といは
大夫を待ねしめな候かそへ∨候かがいすは
るを一日もふやし何大夫のはりくて
各かたへふた居て一みてふか方て
霞ふそて又はねしかくへも仕∨て
ななさかる牛しかやとにとかこころに
ふこことにたり候かかはいょいょ
めんぼくうしふいとたか候かかつつ
□大夫ととのへてのかかく又一えに
かふしかか中々にいへとえやへのいか
立てかのかのらたて又いやたのみし
一つるわへ∨いたへく∨いきややをいそ

P23

八見入名にてけやかしたのみ入りし
青∨小左にみな候いかれ候ねきし元
るひね□し叶し
すいりやう申し申しも□∨家もすり
とへかしめつして一覚は左衛光
らし下霞つめ申とてふちはみて
かないまひ世てのふかいましにふらんに
見か候てふねとへ□ぬふしつ∨
くつなきとしに和入し道小左に候
左京にし手おり色めはくさかい
やむもおに候かて∨云にう大夫とに大
殿つもよそしま候らえきたしなか候
中間共ね事に四をらすたいくつなき
様に今く理夢し霞とめとひなんさ
からとや但めな候申哉つくて候山乙
しんてのひんきに安恵ましひんつ∨
□やんどしのそり色き文をつてられ
とこへえ屋∨迄と∨けらへとらたん

【下段】

きくてはた立人ひとつてたのし入の
みらんへのててにただ美たのみ／＼入
なえとかへいしやしけれこれふへんに
立見にそをのみ何んし入にはみへし
それたちのはるた候そしふかり
申し存候四たしもはすいりゃうて
くた∨はけかのてししるそはいへ

らしめてうく申し候

十月十日　　玄心

従堺

□□□　□□□

□□□　□□□

玄心

則岡三平とのへ

P24

一万今語連御納恵
其後者か得公た御
床郎奉後とか無たのや
折に拙土は元の宿分
左右承珍閏在候

【下段】

面談に今風之候て理
妙之候

宮井太郎兵衛
九月晦日　□□

P25

さ様前侍之花柚之木
落限九前なかこをと
御約衛成由にょ其柚の
木若棟寺九立なょそて
間ほり寄六と九三九
と仰に付る此け私身
さ様申けほり寄も
ら申付茶人彦越と
間右之柚之木んほらせ
た此ゑにかこし留又こ
申候尚形る其元∨
然越一申り其節

【下段】

則岡利兵衛　□申中

P26

宮井佐納とも間

一筆申とて明冬は

見事成寒対御翁

送給遠路懇しし

段状銀ら玉と候

P27

其方酒も無たしも

珍重になし猶部

後音しそをく

民部

正月二十日　政信

則岡本政信

P28

阡年古老陀重て
其元何も無事を
其位着も此身鶴
風も無し明為十

P29

蜜時籠送様

遠方恋志な妹然

の玉し当後音

いて浄く

民部大輔

正月八日　政信

則岡分大夫

P30

冬為益語

料壱露是

八遠語客恵

陰妹然之出

P31
部後常時
候

民部大輔

正月吉日　□□

則岡分大夫

P32

有為音信うつか
いろ遠方毫
臨将何えるて
候尋後さるし

P33

此し

民部大輔

月十三日　政信

則岡分大夫

P34

明有為音信

寒時露送路

遠方恋しし臨

将然之部猶

P35

部位をひし此候

民部大輔

二月十一日　政信

則岡分大夫

P36

為音信金時一篭

送給進路恋置し

臨抹然之玉こし長方

何も無事巻主

無事之宮許

P37

列な無し香重而

一布候是此候

民部大輔

二月六日　政信

則岡理兵衛

P38

明空為音流

客時蔵送路

遠方恋立し臨

抹然之玉々当

尋合と此候

P39

民部大輔

二月十一日　政信

則岡理兵衛

かへし居実□ふ我に身かにの
いとしれし用事たしえまちしは
一角は然れ共は見
何か事御入し哉之後は
久し上置角にを方の
保取の人け候保は別を
又便はふ月内候取及是と
自らをし度一な事ての
東女在之ふぬのんま
居申事一日佐人よりも
あたましき伊と平生申
暮か事てるかむの

P40

今有か座のは此方少し
月事の無座と越形も
無花故か尋も不預候我も
は十に及申へとうえね遠方と
申候と申も部居は衆
の事私し申□床敷を
暮申事島石方もに
か無申に御音の不是第水
ものに不後取諸事見也の
世話なく無し又此方に越ん
いも無工付候ものしとらまふし
此方無実事暮申いし
荘十布荘更さ無申に相動
申事へたかや候ゐ者帳
無し候て余便もふね無もひ
あふし重はりてらし来し
空及ね候幸となめ此なし
かて行し

十月二十二日

則岡勘□形宮絵忠大夫

P41

る祝は蜜柑

壱篭親来満

足申我本弥

照国出し一の心

P42

あし後し

民部

二月十五日　基玄

貞享三年

真心様分三代目

則岡文大夫とのへ